

JSA 神奈川支部通信

No. 1 January 2025 日本科学者会議神奈川支部 発行

事務局長：☎230-0071 横浜市鶴見区駒岡 3-30-G-408 飯岡ひろし

HP：https://jsa-kanagawa.jp、携帯電話 080-1987-0994、E-mail：jsa.kanagawa(at)gmail.com

年会費 10800 円、院生・読者 5400 円 ゆうちょ銀行振替口座 00280-1-12774 日本科学者会議神奈川支部

この号の目次

- ◆ 「建国記念の日」に反対する 2. 11 神奈川県民のつどいのお知らせ 県民のつどい実行委員会
- ◆ 25 回総学「平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために」の参加報告 後藤仁敏
- ◆ 和田征子さん（日本被団協事務局次長）ノーベル平和賞受賞式参加壮行会での挨拶 後藤仁敏
- ◆ 地域・職場・青年革新懇全国交流会 in 京都に参加して 後藤仁敏
- ◆ 栄区革新懇が総会を開催、来年の市長選の課題を学ぶ 後藤仁敏
- ◆ 2 つの苦難（つれあいの脳内出血と自宅を襲った土砂災害）のその後 北山宏之
- ◆ 『図説 菌からみた生物の進化』（朝倉書店）出版までの苦労話 後藤仁敏

「建国記念の日」に反対する 2. 11 神奈川県民のつどいのお知らせ

2.11 県民のつどい実行委員会

JSA 神奈川支部も実行委員会に参加している「建国記念の日」に反対する 2. 11 神奈川県民のつどい：平和憲法と《シンボルの政治》を考えるが 2 月 11 日に開催されます。憲法の平和主義・人権尊重主義・民主主義をベースにして、「建国記念の日」というシンボル（象徴）、ヒロシマというシンボルについても考えてみたいと思います。江戸時代まで日本には建国記念の日はなかったのですが、明治政府は富国強兵を進めるために、1873 年に神話にもとづいて 2 月 11 日を「紀元節」としました。戦後、「紀元節」は廃止されましたが、1966 年に戦前回帰を狙う政府によって 2 月 11 日は「建国記念の日」として復活されました。この日は、日本社会にとって大変にシンボリック（象徴的）な意味を持つ祝日といえます。今年は、憲法学者の志田陽子さんに「平和憲法と《シンボルの政治》を考える」についてお話しいたします。多くの皆様の参加をお待ちしています。



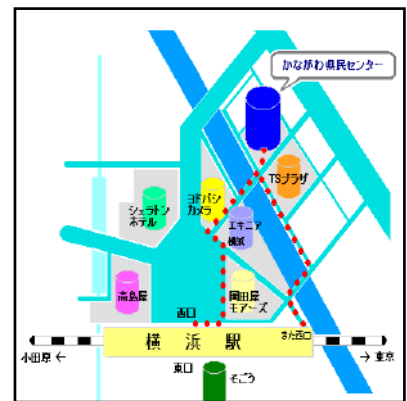
講師：志田陽子さん（武蔵野美術大学教授・憲法学）

日時：2025 年 2 月 11 日（火・休）13 時 30 分開会 受付 12 時 30 分～（12:45 頃から DVD の上映あり）

会場：かながわ県民センター 2 階ホール（横浜駅西口下車徒歩 5 分、地図参照）

資料代：500 円（高校生以下は無料）

講師プロフィール：志田陽子（しだようこ）さん 1961 年、東京都世田谷区生まれ。1984 年、早稲田大学法学部卒業。2000 年、同大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。同年、武蔵野美術



大学造形学部助教授。2002年、同教授。2007年に「文化戦争と憲法理論 アイデンティティの相剋と模索」で早大博士（法学）。著書に、『表現活動と法』（武蔵野美術大学出版局）、『文化戦争と憲法理論 アイデンティティの相剋と模索』（法律文化社）、『表現者のための憲法入門』（武蔵野美術大学出版局）、『「表現の自由」の明日へ 一人ひとりのために、共存社会のために』（大月書店）などがある。

主催：2.11 神奈川県民のつどい実行委員会

連絡先：神奈川県民のつどい実行委員会（担当・住谷） ☎045-212-5855 当日限り（事務局） ☎080-6709-4147

2.11 神奈川県民の集い実行委員会構成団体（2024年11月現在/順不同） 1. 日本基督教団神奈川県教区靖国天皇制問題委員会、2. 日本キリスト教会横浜桐畑教会靖国神社問題委員、3. 在日大韓基督教会横浜教会、4. 神奈川県教育運動連絡センター、5. 神奈川県私立学教職員組合連合、6. 横浜市立高等学校教職員組合、7. 神奈川県立障害児学校教職員組合、8. 神奈川県教職員連絡協議会、9. 神奈川県高校教職員連絡会、10. 横浜教職員の会、11. 川崎市教職員連絡会、12. 日本科学者会議神奈川県支部、13. 神奈川県民のつどい実行委員会、14. 神奈川県自治労連、15. 自由法曹団神奈川県支部、16. 青法協神奈川県支部、17. 神奈川県歴史教育者協議会、18. 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟神奈川県本部、19. アジア・フォーラム横浜、20. 県民連絡会、21. 教科書・市民フォーラム、22. 神奈川県平和遺族会

25 総学「平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために」の参加報告

後藤仁敏

はじめに

25総学が11月23日から12月8日にかけての土日に、zoomによるオンラインで開催されました。私は、初日11月23日の基調講演と全体集会、12月7日午後のA1平和問題分科会、12月8日午前のA2九条改憲の動向の多角的検討、同日午後の閉会式に参加しましたので、簡単に報告します。

基調講演と全体集会

長谷川真理子（日本芸術文化振興会理事長、総合研究大学院大学前学長）氏が「人類の進化と現代社会—現代社会は発展したが、そこには負の側面もある—」について、次のように基調講演しました。

人類の歴史は600万年といわれるが、そのほとんどは狩猟採集生活であった。1万年前から、農耕・牧畜と定住生活が始まった。1850年ごろから起こった産業革命により、ヒトは自らのエネルギー源を手に入れ、石炭・石油を燃やして、自然エネルギー以外に動力を得られるようになった。その後の文明、文化の発展により、私たちの生活はずいぶんと楽になったのだが、同時に、進化史的に見ればずいぶんと不自然になった。そのことの地球環境全体に対する負荷は、もはや明らかである（Syvitski et al., 2020）。それらがもたらすストレスも異様に増加している。文明の発展によって得たことと同時に、失ったことを改めて認識し、これからの社会を築く指針としたい。

長谷川氏の講演は、人類学者としての文明論、社会論としてきわめて一般的な見解で、もう少しヒトとはいかなる動物か、突っ込んだ人間論を期待していたので、残念であった。

続いて、全体集会「科学者運動としての学際研究と市民科学—社会科代の解決とJSAの活性化の



同時達成へ」として、以下の3つの講演が行われた。

中塚武会員（名古屋大学、愛知支部）は「『JSA 学際研究・市民科学発展プログラム』が目指すもの」について話した。このプログラムは2022年5月の定期大会で中塚氏の提案で始まったが、4年半を経ても開催の見通しもないのはなぜだろうか。まずは提案者から始めてはどうかと思った。

次の畑明郎氏（元大阪市立大学、滋賀支部）は「これまでのJSAにおける市民との連携の歴史—公害問題、とくにイタイタイ病を中心に」について報告した。畑氏は修士課程院生の時に、京大金属公害研究グループを結成し、JSA公害問題研究委員会の東京農工大学農学部の本間慎教授らと1972～73年に「兵庫県生野鉱山周辺地域カドミウム汚染調査」を実施し、1979年に編著『三井資本とイタイタイ病』を大月書店より出版した。博士課程修了後、京都市役所に就職し、衛生公害研究所と環境保全室の職場に19年間勤務し、京都市の環境行政・調査研究に携わった。京都市在職中の1994年に単著『イタイタイ病—発生源対策22年のあゆみ』を実教出版より出版した。それを契機に、JSA公害問題研究委員会元委員長の大阪市立大学商学部の加藤邦興教授より環境政策論担当助教授として就任依頼があり、1995年に大阪市立大学商学部助教授に就任した。その後、神岡鉱山のカドニウム排出によるイタイタイ病対策に従事し、大阪市立大学名誉教授の宮本憲一氏が「世界を驚かせた深刻な四大公害事件の中で、被害者の救済にとどまらず、半世紀にわたって企業と交渉して、毎年汚染源を調査し、公害対策を改善し、川を正常化し、農地復元までに至る先進的で完璧な公害対策を実現したのはイタイタイ病事件だけであろう」といわせるまでの成果を『イタイタイ病発生源対策50年史』（本の泉社）としてまとめている。畑氏個人の活躍についてはよく理解できたが、市民との連携についてはあまり触れられなかったのが残念であった。

中村征樹氏（大阪大学）は「シチズンサイエンスの可能性と課題」について講演した。学術会議が進めるシチズンサイエンスは一般市民による活動で、従来の「市民科学」よりも幅広いもので、「サイエンスカフェ」などが紹介された。

思えば、かつて民主主義科学者協会がめざした「国民のための科学」こそ、市民科学の原点であると感じた。地学団体研究会による団体研究も同じことをめざしている。立石雅昭氏も指摘していたが、大衆参加の野尻湖の発掘もその典型であろう。そして、私たちが専門家と市民を結んで進めているサメの歯化石研究会（サメ研）も同じである。サメ研では、化石愛好家と専門家がいっしょにサメの歯化石の研究を進めている。まったくの素人の人が査読のある学術誌に論文を投稿し、投稿先は国内誌を超えて国際誌にまで及んでいる。さらに、サメの歯化石の研究で学位論文を書き、博士号を取得する会員も多く出ている。結成以来の悲願であった『サメの歯化石のしらべ方』（初版 2020年、第2版 2024年、地学団体研究会）も出版している。まさに、市民科学プロジェクトである。

科学者運動を進めてきたJSAが市民科学をめざすなら、まず、先人の「国民のための科学」をめざした運動から学ぶべきではないだろうか。

A1 平和問題分科会「戦争のない平和な時代を拓く」

12月7日（土）13時から18時30分までなんと5時間半にわたって、67名（登録は106名）の参加で開催された。まず、座長の亀山統一氏（沖縄支部）から「JSA25総学平和問題分科会の開催に当たって」として、この分科会の流れと要点についての解説があった。

(1)徳田博人氏（琉球大学）が「日本の軍事国家化と地方自治の危機—辺野古裁判と改正地方自治を素材として」と題して、辺野古最高裁判決は国の専断、自治権の侵害を可能とするもので、憲法原理に反している。今年6月の地方自治法の改定も、国の特例的関与を認めており、憲法の保障する地方自治（その本旨）に違反する立法的関与だと話した。

(2)前田定孝氏（三重支部）は「地方自治体と戦争遂行体制—「辺野古後」の国地方関係」として次のように話した。6月の地方自治法改悪で、国が「補充的指示権」を命令できるとした。また、土地利用規制法で、注視区域と特別注視区域を指定し、監視できるようにした。さらに、「特定利用空港・港湾」として25か所を指定し、戦争のために利用できるようにした。しかし、地方自治体

は「住民の福祉の増進を図る」という地方自治法により、国地方関係を逆転させることはできていない。

(3)立石雅昭（新潟支部、新潟大学名誉教授）は「能登半島地震に学ぶー沖縄辺野古新基地の安全性」として、次のように話した。2024年元旦の能登半島地震では北部から西部地域が2～4m隆起した。それは中位段丘が100～120mの高さに分布していることで予測可能であった。辺野古でも同様で、20数～40mの中位段丘と4～8mの低位段丘があり、今回の地震で4段目の低位段丘が生じた。政府・防衛省は能登半島地震に学び、その教訓を生かすことを放棄している。

(5)合田公計（大分支部）は「大分敷戸ミサイル弾薬庫問題～住宅地に軍事目標を置く政策とは何か」として、敷戸弾薬庫は住宅地のど真ん中にあり、ジュネーブ条約にも違反していると告発した。

休憩の後、(6)井原 聡（東京支部）は「経済施策に名を借りたセキュリティクリアランス制度による軍事動員」として、2022年の経済安保推進法、2024年の経済安保秘密法は、経済施策を装ってセキュリティ・クリアランス制度を導入し、科学・技術、大学・研究起案などを軍事動員すると述べた。

(7)豊島耕一（佐賀大学名誉教授）は「佐賀オスプレイ基地建設に反対する非暴力直接行動について」として、「オスプレイストップ！9条実施アクション」によるオスプレイ基地建設阻止行動の意義について話した。

ついで、私が(8)「横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備の撤回と早期全面返還を求める市民運動」として、神奈川3区野党共闘を求める市民の会による市議会請願、青井未帆氏ら学者・弁護士が呼びかけた6万近くの市長宛ての県民署名、市民200人によるゲート前での運用開始抗議行動、連絡会による衆参両院議長あての請願署名などの運動について報告した。

最後に、大倉信彦（沖縄支部）氏は「専門学校講義の空き時間を使った立憲主義を主題とした主権者教育の試み」として、3回の15分ミニ授業で、憲法の意義を教えた経験を語った。

いずれも貴重な講演で、学ぶことの多い分科会であった。ただ、5時間半という長時間では、高齢者にとってはかなりきつい分科会であった。

A2 九条改憲の動向の多角的検討：九条科学者の会19周年の集い

12月8日（日）の9時30分から12時までの2時間半の52人（登録は122人）の参加の分科会であった。はじめに、座長の浜田盛久氏（九条科学者の会事務局）から九条科学者の会の紹介と、分科会の流れについて説明があった。

最初に、(1)私が「草の根の運動で憲法改悪を許さなかった九条の会運動ー『九条科学者の会かながわ』の20年を中心に」として次のように話した。九条の会・九条科学者の会と改憲の歴史をたどり、国会で改憲勢力が3分の2を超える状況でも、安倍改憲も菅改憲も岸田改憲も阻止してきたのは、燎原の火のように広がった7500もの九条の会の草の根の運動があったからだ。今や総選挙で3分の2以上の議席を失い、石破改憲はやりたくてもできない状況になった。しかし、集団的自衛権の行使容認から、敵基地攻撃能力の保有、安保3文書による5年間で43兆円もの防衛費、「台湾有事」に備える南西諸島の軍事要塞化まで、実質改憲や立法改憲、憲法破壊が進められてきている。今後は、与党が過半数割れを起こした新しい国会で、憲法破壊を許さない運動を進めよう。

(2)松井安俊氏（九条科学者の会事務局）は「九条科学者の会の軌跡ー戦争する国への道に抗う運動のなかで」として、九条科学者の会の歩みを3900筆におよぶ賛同署名、周年と秋の講演会、声明や4種のリーフレットの発行などの活動について報告した。

(3)永山茂樹氏（東海大学）は「専守防衛論の限界論ー9条改憲との関係で」として、専守防衛論は平和的に見えるが、じつは危険で、9条が掲げる非武装中立こそ大切だと主張した。

(4)稲 正樹氏（元国際基督教大学）は「憲法の軍縮平和主義の原点の発展的解釈」として、憲法の軍縮平和主義の原点を発展させ、国連の平和維持機能を強化し、わが国の軍縮と軍備撤廃を進め、「正義」に基づく人類平和「秩序」の建設に努めることが必要と訴えた。

(5)志田陽子氏（武蔵野美術大学・日本科学者会議共同代表）は「リスクと人格権—安保法制違憲訴訟を題材に」として、安保法制違憲訴訟に基づいて、憲法の求める「司法の役割」について述べた。

(6)本田浩邦氏（獨協大学）は「アメリカ介入主義外交と日本」として、アメリカの介入主義が政治主導から軍需産業主導へと進みんできた過程を解説した。

最後に、(7)山根徹也氏（横浜市立大学）が「憲法改悪の動きと歴史学・歴史教育」として、改定教育基本法による小学校の学習指導要領にみる教科書の変化を指摘し、憲法9条の破壊の現われと指摘した。

閉会式

12月8日の午後、短時間ではあったが、閉会式が行われた。松田正久実行委員長のまとめでは、580名の登録があり、その半数が参加したこと、非会員が半数あり、JSAへの参加が期待されること、たいへん意義深い分野横断的な学術研究集会になったとのことであった。とくに、「九条科学者の会かながわ」の地道な活動について評価していただいたことが嬉しかった。

前田定孝事務局長の報告では、参加者数についての詳しい報告があった。東海4支部の皆さん、たいへんご苦労様でした。2年後の、第26回総学でまたお会いしましょう。

和田征子さん（被団協事務局次長）のノーベル平和賞受賞式参加壮行会での挨拶

後藤仁敏

2024年11月29日、ノーベル平和賞の授賞式に出発される日本被爆者団体協議会事務局次長の和田征子さんの壮行会が、85人も参加で、鶴見公会堂会議室で開催されました。以下は、その時の、鶴見平和フェスティバル呼びかけ人としての私の挨拶です。

和田征子さん、ノーベル平和賞の受賞、おめでとうございます。私の知っている被爆者の方々は95歳とか98歳の方が多く、受賞が遅すぎると感じています。もっと早ければ良かったと思います。でもぎりぎり間に合った方も多いと思います。私は、大学1年生、18歳の夏に、東京で開催された第11回原水爆禁止世界大会に参加しました。その時の感動が私のその後の60年の人生の原点になっていると思います。



図1 子どもたちから祝福を受ける和田さん

私は鶴見大学で40年以上にわたって解剖学を教えてきた後藤と申します。退職して11年になりました。

まだ現役時代の2008年から鶴見平和フェスティバルの呼びかけ人を務めてきました。今年5月に亡くなった脚本家の小山内美江子さん、最近では野末浩之先生も呼びかけ人です。

鶴見平和フェスは、「九条の会鶴見区交流センター」が中心になって実行委員会をつくり、これまで14回開催してきました。2017年までは野外の鶴見駅西口モール街で開催してきましたが、2018年は雨で中止になりました。2019年からは雨の心配のない鶴見公会堂ホールで開催するようになりましたが、2020年から2023年まで3年間はコロナ禍で中止になりました。2023年から再開し、昨年はウクライナ戦争が始まったので、平和外交の大切さを元外交官の孫崎享さんに講演していただきました。また、今年にはガザでのイスラエル軍によるパレスチナ人の虐殺がはじまったので、元イスラエル軍兵士のダニー・ネフセタイさんと、学習院大学教授で憲法学者の青井未帆さんに講演いただきました。

来年は、5月25日の日曜日に、鶴見公会堂ホールで開催することになり、現在、出演者に依頼しているところです。大勢の方々のご参加をお願いします。

さて、岸田前首相は、広島出身ながら、核兵器を含む抑止力の強化を主張し、廃絶を願う被爆者の意思を踏みにじりました。さらに、石破首相は米国との核兵器のシェア（共有）を唱え、被爆者の願いを踏みにじっています。私は一日も早く、唯一の被爆国である日本にも、核兵器禁止条約に署名・批准する政府が実現してほしいと願っています。鶴見平和フェスもその思いで開催し続けて行きたいと思っています。和田さん、どうかご無事で帰国されるよう祈っております。

地域・職場・青年革新懇全国交流会 in 京都に参加して

後藤仁敏

2024年11月30日と12月1日に京都で、地域・職場・青年革新懇全国交流会が開催され、参加しましたので、報告します。参加者は全国31都道府県から570名で、神奈川からは10名でした。

11月30日、開会前に代表世話人会が開催され、翌日の分科会・分散会の運営などについての打合せが行なわれました。私は今年6月から神奈川革新懇の推薦で、全国革新懇の代表世話人を務めているのです。

13時30分から全体会が京都テルサのホールで開かれました。はじめに、京都革新懇の森川明さんの主催者挨拶、市民連合ユナイトきょうとの白坂有子さんの来賓挨拶に続いて、次の3人の講演がありました。

桜田照雄さん（阪南大学教授）は、「大阪万博の夢洲は汚泥で埋め立てられた場所で、イベント会場としてはまったく適当でない、事故が起きないうちに中止を」と訴えました。

田村智子さん（日本共産党委員長）は、「総選挙で与党が過半数割れを起こし、国会の役割が変わった。密室協議が許されなくなり、フルオープンとの与野党協議会で、国民の切実な要求を実現してゆきたい」と話しました（図1）。

角田由紀子さん（弁護士）は、「ジェンダー・ギャップ指数では日本は146カ国中118位。社会構造を憲法の視点から点検することが必須だ」と講演しました。

休憩の後、小田川義和さん（事務室長）が、「562の地域、76の職場、19の青年革新懇は要求と政治の架け橋、革新統一戦線の担い手として、『市民と野党の共闘』の新たな発展の流れをつくり出そう」との問題提起と報告を行いました。

その後、14の地域・職場・政面革新懇から発言がありました。関西の4人の青年革新懇の元気な活動報告（図2）と、出来立ての兵庫の西脇・多可革新懇の報告が印象的でした。

夜は、神奈川からの参加者（図3）で、懇親会を会場近くのお好み焼き屋で開きました。飛び入りで、松山からの女性の参加者が加わって楽しい時を過ごしました。



図1 講演する共産党の田村智子委員長



図2 報告する関西の青年革新懇の皆さん



図3 参加した神奈川革新懇の皆さん

翌日は、5つの分散会と、職場・青年・ジェンダー・共闘の4つの分科会に分かれて、討議が行われました。私は第2分散会の座長を務めました。地元京都からの3人、兵庫・和歌山・東京・千葉・神奈川・愛知・広島・共産党から各1人の計12人が参加し、自己紹介の後、教育、高齢化、革新懇づくりなどについて、熱心に話し合いました。とくに、京都北・上京革新懇から、「全国革新懇ニュース」の普及、活用、拡大についての詳しい経験が話され、ブロック別の交流会の開催など、全国革新懇への要望も出されました。

全国どこでも、高齢化など共通の問題を抱えており、それぞれの活動の今後に役立つ意義深い分散会になりました。

栄区革新懇が総会を開催、来年の横浜市長選の課題を学ぶ

後藤仁敏

2024年12月4日、栄区革新懇が第17期総会をあーすぶらざ研修室で開催し、22名の会員が参加しました。

記念講演では市民のための横浜市政を進める会事務局長の政村修さんが「山中市政の3年間と市長選の課題」について、以下のように話しました。

市従労組として、また、市民のための市長をつくる会を結成して、1978年の朝倉選挙以来、市長選に関わってきました。負けっぱなしでしたが、最後に山中市長選で勝つことができました。山中市政の3年間については、9月1日の市政を進める会主催のシンポジウムで作成した「選挙公約の到達点から見た山中市政の3年間」を講演レジメに付けましたのでご覧ください。

カジノ誘致の撤回から始まり、自公が多数を占める市議会のもとでも、小児医療費の中学校3年生までの完全無料、出産費用は出産育児一時金の引き上げに9万円の市独自の助成を実施、敬老パスも報告書が出され、来年度予算で具体化される予定です。デリバリーながら、全員喫食の給食も実現に向かっていきます。来年度は、65歳での無料検診など、癌と認知症への対策を進める予定です。1期目でこれだけの公約を実現した実績は高く評価すべきです。市民意識調査でも、満足が44.0%、不満は16.5%です。

ただ、弱点としては、林市政から引き継いだ国際園芸博、関内再開発などを進めている点です。また、住民自治にもとづく市民本位の市政実現については、若い人も参加した山下ふ頭再開発についてのタウンミーティングなどの試みはありますが、道のり続いています。

市長は前回市長選を闘った4つの勢力、立憲民主党、連合、ハーバーリゾート協会、市民の会と調整して進めたいと言っています。一方で、11月25日には政治資金パーティーが開かれ、後援会も発足しました。これには自民党とも関係の深い横浜商工会議所も入っています。自民党は山中でよいとする勢力と山中ではダメとする勢力があるようです。

来年は、6月都議選、7月参院選、8月横浜市長選と選挙が続きます。今年の総選挙でつくり出された、自公過半数割れを起こした新しい政治情勢をさらに発展させる可能性を秘めた年になります。政村さんは、参加者からの質問にも丁寧に答えました。

その後、総会議事が行なわれ、はじめに代表世話人の私と、神奈川革新懇の三浦謙一代表世話人の挨拶がありました。続いて、筒井完治事務局長が早稲田候補の4選を実現した4区市民連合の総



図1 講演する政村さんと筒井事務局長

選挙での活動、区内の各団体の動きなど 16 期の活動報告と、17 期の課題を提起しました。近藤洋子世話人が会計報告と予算案を提案しました。その後、役員体制の提案とともに、議案はすべて大きな拍手で承認されました。

2つの苦難（つれあいの脳内出血・自宅を襲った土砂災害）のその後

神奈川民間懇 北山宏之

前月の支部ニュースからの続きで、2つの苦難の対応に追われているが何とか見通しが立ちつつある。

つれあいの入院しているリハビリ病院側から、来年1月退院予定（3月まで延長は可能）としてその後の住居先を決めてほしいと面談で告げられた。土砂災害に遭った自宅に戻ることが困難なため、退院後の選択肢と課題を一覧にしてみた。

選択肢	課題
自宅	<ul style="list-style-type: none"> ・リビング・キッチンのリホーム完了時期未定。 （災害発生から3ヶ月も経つのに損害保険会社からの査定来ず。土砂撤去費用請求額 約100万円、リホーム見積額約300万円、早く何とかしてくれないとリホーム工事が始められない！） ・土砂災害対応の擁壁作成を行政に依頼した。完成までに5～6年要。今回崩壊場所近辺の応急措置は一応完了、完成すればレッドゾーン解除もあり得る。 ・階段数：玄関まで6段、1階～2階で13段の登り降り必須。（安全上2階ベッドでの就寝要） ・各室の片づけ、整理要 ・バリアフリー対応要。
市内の団地 （現在の避難先 5階）	<ul style="list-style-type: none"> ・階段数：1階まで5段、2階～5階で（8+6）段×4で合計61段の登り降り必須。片側に丈夫な手すりあり。 ・知人からの紹介で現在生活中、費用は水光熱費のみ、いつまでいてもよい。 ・築52年で古い。エレベータ・バリアフリー対策はなし。
他物件 （バリアフリー前提）	<ul style="list-style-type: none"> ・中古マンション 安くて400万円要。賃貸だと～半年借りるのは困難、最短でも1年要。 →不動産に依頼中 ・売りに出ている別棟の団地1階で750万円、賃貸不可 ・家財道具調達要。
老人健康施設（略して老健）	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月～1年入所できる。費用約12万円、リハビリ・介護サービスなどを提供、在宅復帰をめざす生活施設 ・ソーシャルワーカーに依頼中。

病院側のソーシャルワーカー（社会福祉士）や理学療法士、家族（長男など）、不動産屋、そして

つれあい本人などと、じっくり話し合い、結局、退院後は老健施設に移ることで合意できた。ここ以外の選択肢は一長一短があり、とにかく行き先が決まってホッとしている。現在の避難先の団地がもし1階で、さらに自力で5段の階段の登り降りを何とかできるようになったとしたらそこに住めたわけで、違った展開になったかも知れない。

11月の病院側との面談では、療養上の留意事項・指導内容として、「日頃の体調が安定してきており、階段昇降等のリハビリを実施することができている。今後の歩行形態に関しては、ご本人と相談しながら、歩行器もしくは杖で行えるよう練習を実施していく。精神機能に関しては注意機能が低下している可能性が見られている。今後時間の経過とともに日常生活動作の拡大を図ることができる可能性がある」、さらに治療方針として「ピックアップ歩行器を使用しての日常生活動作の自立を短期的な目標とする。小脳性認知感情症候群は今後軽減する可能性があり、それによる日常生活動作の向上の可能性（杖歩行自立など）がある。自宅の準備状況に合わせて退院の計画を行なう」ということが示された。

いきなり介護という未知の世界に突然、強制的に引きずり込まれたが、覚悟を決めて取り組む以外にない。「介護はさまざまな可能性を考えながら常に一步先を考えておく必要がある」（「おひとりさまの介護はじめ55話」より）とあるように、老健でのリハビリ後の対応も求められる。要介護4と認定され、現状では自力歩行はできていない。階段の上り下りもようやく始めたところで、何がいつ頃までにできるようになるかは医師にも理学療法士にもつれあい本人にもわからないということだそう。

自宅でも車椅子生活が可能とか、自宅以外が終のすみ家になる可能性も視野に入れるなど、柔軟な対応も求められる。また、介護する側が負担を抱えすぎないように介護保険制度をしっかりと活用したい。

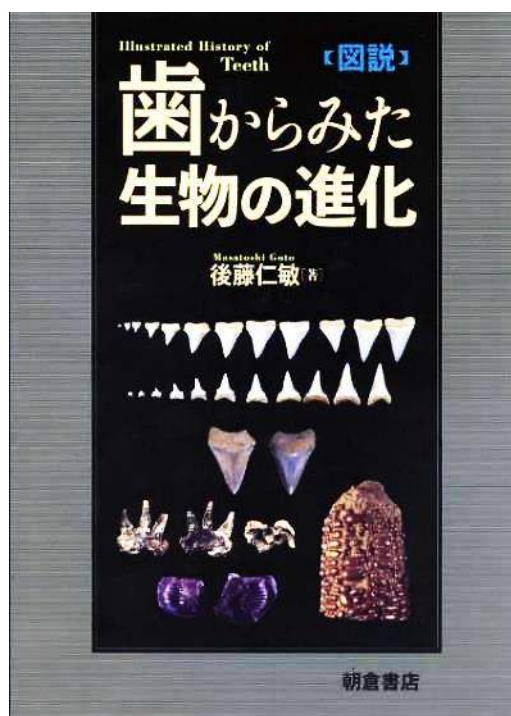
『図説 歯から見た生物の進化』（朝倉書店）出版までの苦労話

後藤仁敏

朝倉書店編集部の森川・尹両氏から『図説 歯から見た生物の進化』の執筆依頼を受けたのは2021年9月だった。目次案と原稿の一部の提出を求められ、合格となった。12月にオンライン会議で、刊行企画書が提案され、2022年9月に完成原稿を脱稿、12月に初校、2023年5月に刊行の予定となった。

2022年1月から毎月20日原稿締切の予定で、1章ずつ原稿を書き、尹氏からコメントと励ましをいただき、なかなか20日の締め切りは守れず、遅れることもあったが、まずは快調な滑り出しで原稿の執筆を進めた。6月には本書のハイライトになる5章の哺乳類の歯の部分を書き終え、山を越えたと感じた。

ところが、10月に7章のもう一つの山である人類の歯を書き終え、あとは8章を残すのみとなった11月に、家の相棒が急遽入院・手術を受けることになり、12月には退院したが、連日のような病院通いで執筆は中断された。病院は若葉台にあって、本郷台とは横浜市の両端の位置であつ



たのだ。しかも、私は給料は稼いできたが、生活の多くの部分を相棒に依存して生きてきており、炊飯器や洗濯機も、使い方を電話で教えてもらいながらでないと使用できない、体たらくであったのだ。

なんとか生活のリズムを取り戻し、最後の章「人類の歯の未来」の原稿を提出したのは2023年2月となった。4月には文献も含め、一次原稿を脱稿した。しかし、その後、朝倉書店からの連絡は途絶え、8月になってようやく森川・尹両氏に本郷台で会い、全体の校正以前のコメント付きの原稿を受け取った。出版は予定より1年遅れで、2024年5月となった。

ひと月かかってコメントについてすべての原稿を修正し、提出したのは9月になった。ここで、まったく予想もつかなかった事件が起こった。9月末で担当者の尹氏が朝倉書店を退職するというのだ。まさにびっくり仰天であった。2年間にわたって尹氏とともに本づくりを進めてきた相棒がいなくなってしまったのだ。

その後、担当者が加野氏に代わったとの連絡があったが、しばらくの間、朝倉書店から連絡がない日々が空しく過ぎていった。初校が出たとの連絡をうけたのは、2024年2月であった。私は1日も早くしっかり受け取りたいので、朝倉書店に出向き、古生物担当の中村氏、森川氏、加野氏に会い、原稿への意見をいただき、加野氏による詳細なコメントの書き込まれた「初校」を受け取った。

その後はまさに地獄のような日々だった。できるだけ早く初校を出せとの要請で、連日、加野氏のコメントにもとづく原稿の修正をおこなった。尹氏と二人で原稿をやりとりして一度はOKとなった原稿にこれほどまでにコメントが書き込まれるとは……。これは約束違反ではないかとも感じた。しかし、加野氏のコメントにはそれなりの意味があり、原稿をよくするものであることにも気づき、作業をおこなった。一番時間がかかったのは、図や本文の根拠となる原典を探すことであつた。現職の頃は、研究室のこのあたりにあつた文献が、退職する際に家に運ぶ過程でどこかに紛れ込んでしまっていることが多かったのだ。なんとか、ひと月余で作業を終え、初校を朝倉書店に届けた。

その後、きれいな図をつくるために、図の原図を朝倉書店に送り、きれいな図になった再校が届いたのは5月末であった。また、表紙に掲載する図も提出し、7月初めには3つの装幀案が届いた。7月中旬には三校が届き、1週間で三校を届けた。7月下旬には索引や奥付の校正も届き、定価が5900円＋税、初版は100部に決定した。

9月下旬には東京新聞などに広告が掲載された。9月末には森川氏が著者謹呈分10冊を持参して拙宅に届けていただく。私は12人への書評の依頼状を渡し、本に添えて書評依頼を発送してもらった。10月初旬には著者購入分の100冊が自宅に届いたので、代金54万円を朝倉書店に振り込む。また、図の引用の了解をいただいた方々、JSA神奈川支部など日ごろから諸活動で世話になっている方々に、礼状を添えて本を謹呈した。10月19日には、JSA神奈川支部研究交流会で本書の苦労話を発表した。

11月24日には「しんぶん赤旗」に書評が掲載され、その後も続々と各紙誌に書評が掲載されつつある状況である。概して好評で、苦労した甲斐があつたと関係者に深く感謝している。

『図説 歯からみた生物の進化』後藤仁敏著、朝倉書店、定価5800円＋税、B5判、244頁、2024年10月1日発行、ISBN：978-4-254-17190-7 C3045)

行事案内

- ☆12月19日(木) 9:30～ 「平和で明るい神奈川県政をつくる会」県政ウォッチ どうなっている!?神奈川の農業 9時30分に平塚駅北口集合(神奈川労連のノボリ目印) 参加費2000円 定員25人(定員になり次第締め切ります) 予定:平塚駅北口→10時30分～12時 神奈川県農業技術センター見学→12時45分 小田原早川港(昼食)→14時 ミカン収穫体験と生産者の話→耕作放棄地の見学と説明→15時30分 出発して最寄りのJR駅 申込み・問合せ:明るい会事務局・山田(電話045-212-5855, Fax. 045-212-5743, info(at)kanagawa-rourenn.jp)に名前、所属など、電話またはメールアドレスをお知らせください)
- ☆12月19日(木) 15:00～18:00 『ヨコハマ市民自治を考える会』の定例会 会場:かながわ県民センター706号室(横浜駅西口徒歩5分) 問合せ:Eメールkura335200@star.ocn.ne.jp 参加費:300円

- ☆12月19日(木)17:00～ 12.19 院内集会 選択的夫婦別姓から見る、改憲派と宗教右派との繋がり
共催：立憲フォーラム、戦争をさせない1000人委員会 会場：衆議院第1議員会館 大会議室 講師：
井田奈穂さん(一般社団法人あすには 代表理事) 無料、どなたも参加できます。寒くなりましたが防
寒・感染症対策の上、ご参加ください。院内集会後の議員会館前抗議行動にも、ご参加ください。午後6
時30分～ 議員会館前 総がかり行動主催
- ☆12月20日(金)講演 17:00～19:00 山本理顕プリツカー賞受賞記念講演「建築家の責任」 登壇者
山本理顕/山本理顕設計工場 会場：神奈川県民ホール小ホール(横浜市中区山下町3-1) 定員420名
参加費無料(先着順) 申込締切:11月30日 懇親会 会場:マリンタワー3階 THE HOUSE(横浜市中区山下
町14-1) 19:30～21:20 参加費10,000円(税込) 当日懇親会受付にて現金支払い 定員100名(先着順)
講演会サイト:<https://www.jia-kanto.org/kanagawa/topics/2831.html> 主催:一般社団法人神奈川県建
築士会/一般社団法人神奈川県建築士事務所協会/公益社団法人IA 神奈川/一般社団法人日本建築学会関
東支部神奈川支所 後援:神奈川県/一般財団法人神奈川県建築安全協会/一般社団法人神奈川県建設業協
会/一般社団法人神奈川県設備設計事務所協会/神奈川県設計協同組合連合会/神奈川県建築設計協会/横
浜市建築設計協同組合
- ☆12月20日(金)18:30～19:45 第42回原発いらない!金曜行動首相官邸前
- ☆12月21日(土)13:30～ 沖縄に連帯する神奈川のつどい 会場:かながわエルプラザホール(石川町駅
中華街口徒歩5分) 資料代900円(学生無料) 報告:沖縄で国会で闘う 赤嶺政賢さん(衆議院議員)、
神奈川の基地強化は 菅沼幹夫さん(神奈川県平和委員会) 琉球舞踊:児玉恵子さん、児玉優美さん 沖
縄さんしん:久手堅玲奈さん、岡本優子さん 主催:神奈川革新懇、神奈川県平和委員会、安保廃棄統一
促進会議、日中友好協会神奈川県連合会 問合せ:045-663-0041(日中友好協会神奈川県連合会)
- ☆12月22日(日)11:00～11:30 集会、11:30～ パレード 戦争しないと決めた憲法を、活かそう NO WAR
FOR OUR LIBERTY! 集会とパレード 集会会場:桜木町駅前広場 パレード:会場からカップヌードルミ
ュージアムパークまで 主催:ピースかながわ 問合せ:01194.takebuchi(at)gmail.com
- ☆12月22日(日)13:00～16:30 JcJ12月集会 なぜ戦争を止められなかったのかー戦後80年を前に 会
場:東京しごとセンター地下2階講堂(水道橋駅西口徒歩5分) 第1部 基調講演 栗原俊雄さん(毎
日新聞学芸部専門記者) 第2部 シンポジウム 栗原俊雄さん、中村梧郎さん(JcJ代表委員)、藤森研
さん(JcJ代表委員)、古川英一(JcJ事務局長、コーディネーター) 参加費1000円、学生500円 主
催:日本ジャーナリスト会議(JcJ) 申込み先:03-6272-9781(JcJ事務局)
- ☆12月22日(日)14:30～ 合唱団いちばん星 第30回記念コンサートつぎの、一步へ 会場:多摩市民
館大ホール(小田急線向ヶ丘遊園駅徒歩5分) 山寺圭子指揮、中山真理ピアノ 指定席1500円、自由
席1300円、子ども・障害者500円 問合せ:090-4608-7782(高橋さん)
- ☆12月23日(月)12:00～13:00 相次ぐ米兵らによる女性暴行事件に抗議する沖縄県民大会の連帯する新宿
駅東南口での宣伝・署名行動 主催:全国革新懇・安保破棄中央実行委員会・東京革新懇・安保破棄東京
実行委員会
- ☆12月23日(月)13:30～ 第59回中国映画を観る会 「シスター 夏の別れ道 原題:我的姐姐」(イン
ルオシン監督) 資料代:一般500円、日中友好協会会員400円 会場:戸塚役所3階多目的スペース
中(戸塚駅西口徒歩1分) 主催:日中友好協会横浜青年支部 問合せ:080-0281-3935(大幡さん)
- ☆12月27日(金)12:30～15:00 第8回“懐かしの昭和歌謡”歌おう! 会場:クラジャ(カフェ)(小田急線
藤沢本町徒歩7分) 会費1500円(ランチ・ドリンク付) 定員25人 主催:年金者組合藤沢支部 問
合せ:070-1315-3501(新井さん)
- ☆2025年1月9日(木)19:30～ 映画「10月7日からのガザ」オンライン試写会 オンラインでの開催 予
約は下記のフォームに必要事項を記入して申し込みください。[https://pilot.jca.apc.org/nextcloud/
index.php/apps/forms/s/zNngXHPnHNfAMPyKJDtL7bgg](https://pilot.jca.apc.org/nextcloud/index.php/apps/forms/s/zNngXHPnHNfAMPyKJDtL7bgg) あるいは下記にメールで、名前と連絡先メールア
ドレスを記入して申し込みください。toshi@jca.apc.org オンラインのアクセス情報は開始30分前に
[Access-gaza-10-7]という件名のメールで、予約された方に知らせます。動画の公式公開サイト(フランス
語字幕版) <https://www.lesmutins.org/gaza-apres-le-7-octobre> 主催:JCA-NET [https://www.jca.
apc.org/](https://www.jca.apc.org/) 問合せ:小倉利丸(JCA-NET) 070-5553-5495、toshi@jca.apc.org
- ☆1月13日(日)13:00～16:30 新春シンポジウム「被爆80年ー核兵器違法化の時代、問われる被爆国の責
務」 会場:全労連会館2階ホール(御茶ノ水駅徒歩8分) 参加費1000円(学生500円) 特別報告:
和田征子さん(日本原水爆被害者団体協議会事務局次長)「被爆80年、ノーベル平和賞を新たな力にして」
シンポジウム:土田弥生さん(原水爆日本協議会事務局次長)「核兵器の非人道性さらに発信し核兵器廃絶
へ、世界はいま」、小栗岳さん(東京学生平和ゼミナール、法政大学3年生)「私たちが被爆の実相を継承・
発信する先頭に」、加藤裕さん(弁護士、沖縄合同法律事務所)「戦争準備の最前線、日米の軍事強化に“負
けない”沖縄の心」、笠井亮さん(非核の政府を求める会常任世話人)「核固執の自民党政治と『非核の政
府』実現の展望」 オンライン参加希望者は比較の政府を求める会ホームページから事前の申し込みが必
要。問合せ:03-5844-6588
- ☆1月21日(火)18:00～20:00 日中 Cafe 中国について楽しく学び、自由におしゃべりしましょう 会

場：かながわ県民センター707号室（横浜駅西口徒歩5分） 主催：日中友好協会神奈川県連合会 問合せ：080-7937-0638（小出さん）

☆1月25日（土）10:30～12:00 **朝日新聞スペシャル記者講演会 災害大国で生き延びるには～取材から見た教訓** 講師：佐々木英輔（朝日新聞編集委員） 会場：あーすぷらざプラザホール（本郷台駅徒歩3分） 参加無料 募集人数200名 申込み：<http://t.asahi.com/sasaki0125> 締め切り：1月13日 問合せ：神奈川県朝日会（[u6876fy288c\(at\)asahi-net.or.jp](mailto:u6876fy288c(at)asahi-net.or.jp)） 主催：朝日新聞社、神奈川県朝日会

☆1月26日（日）13:30～ **新春平和学校** 会場：県民サポートセンター2階ホール（横浜駅西口徒歩5分） 記念講演：渡辺治さん（一橋大学名誉教授）「石破政権における改憲・軍拡政策の新局面と平和への展望」 特別報告：丸山進さん（神奈川県原水爆被害者の会会長）「核のない世界をめざして」 参加費1000円（大学生以下500円） 主催：神奈川県平和委員会、原水爆禁止神奈川県協議会 問合せ：神奈川県平和委員会（045-231-0103）

☆1月29日（水）13:30 16:30 **セミナー Zoom併用 広がる新たなバイオテクノロジー（エンジニアリング・バイオロジー）を受け入れることができるか？** 会場：東京ボランティア市民活動センター会議室A（飯田橋セントラルプラザ10階、飯田橋駅西口を出たら右。駅に寄り添うようにして建つ20階建てのビルがセントラルプラザ） 講師：四ノ宮成祥さん（元防衛医科大学校長）「バイオテクノロジーと合成生物学」、見上公一先生（慶應義塾大学理工学部外国語・総合教育教室准教授）「エンジニアリング・バイオロジー：デザインされた生命への期待」、天笠啓祐さん（フリージャーナリスト、市民バイオテクノロジー情報室代表）「産業界でのバイオテクノロジー応用の現状」 司会：島菌進さん（東京大学名誉教授） 参加費1000円（現地参加及びZoomとも） 後日期間限定の逃がし発信あります。Zoom参加の方は事前に下記へ振込みください。郵便局からの送金の場合：口座番号10290-70860881 他行からの送金の場合：ゆうちょ銀行028店（ゼロニハチ） 普通7086088 口座名義 神野玲子 Zoomの方は事前申込み：参加希望者は下記必要事項明記の上1月27日まで申込みください。申込み時の必要事項は名前、職業、電話番号、メールアドレス 申込み先 E-mail jreikochan@yahoo.co.jp またはこちらから→<https://forms.gle/YRfhvppNgyn1YDSe7> ZOOM参加申込みされた方には1月27日ごろにZOOMのURL等案内いたします。主催：ゲノム問題検討会議：<https://www.gnomeke06.net/> 問合せ：神野玲子 090-2669-0413

☆2月1日（土）13:30～16:00 **テーマ：PFAS問題を検証する** 会場：東京ボランティア市民活動センター会議室B（飯田橋セントラルプラザ10階、JR総武線・東京メトロ副都心線飯田橋駅西口すぐ） 講師：天笠啓祐さん（フリージャーナリスト、市民バイオテクノロジー情報室代表） 参加費500円（現地参加及びZoomとも） Zoom参加の方は事前に下記へ振込みください。郵便局から送金の場合：口座番号10290-70860881、他行からの送金の場合：ゆうちょ銀行028「店（ゼロニハチ） 普通7086088 口座名義神野玲子 Zooの方の事前申込み：Zoom参加希望者は下記必要事項明記の上、1月27日まで申込みください。申込み時の必要事項は名前、職業、電話番号、メールアドレス 申込み先：E-mail jreikochan@yahoo.co.jp またはこちらから→<https://forms.gle/4ysUhC2PYvquKR877> 当日の詳細案内：ZOOM参加申込みされた方には1月27日ごろにZOOMのURL等案内します。主催：people21 <https://people21she.wixsite.com/people> 共催：ゲノム問題検討会議 <https://www.gnomeke06.net/>

☆2月11日（火・休）12:50～ **「建国記念の日」に反対する2.11神奈川県民のつどい 平和憲法と《シンボルの政治》を考える** 講師：志田陽子さん（武蔵野美術大学教授・憲法学） 会場：かながわ県民センター2階ホール（横浜駅西口徒歩5分） 資料代500円（高校生以下無料） 主催：2.11神奈川県民のつどい実行委員会 連絡先：045-212-5855（神奈川県労連 担当・住谷）、090-6688-9688（当日限り 住谷）

☆2月18日（火）18:00～20:00 **日中 Cafe 中国について楽しく学び、自由におしゃべりしましょう** 会場：かながわ県民センター・ボランティアサロン（横浜駅西口徒歩5分） 主催：日中友好協会神奈川県連合会 問合せ：080-7937-0638（小出さん）

JSA 神奈川支部幹事会・発送作業

日時：1月14日（火）14時30分～16時、14時30分から発送作業、15時から幹事会の予定。

会場：かながわ総研事務所（横浜市中区不老町1-6-9 第1HBビル5階、1階に「牡丹飯店」という中華料理屋のあるビルの5階、JR関内駅西口徒歩3分）、Zoomで参加される方は、15時に <https://www.zoom.us> にアクセスし、メニュー欄の「参加」ボタンをクリックして、ミーティング1月の幹事会のZoomはID：811 9421 0781 パスコード：882431 です。

連絡先：飯岡ひろし（携帯：080-1987-0994、E-mail：[jsa.kanagawa\(at\)gmail.com](mailto:jsa.kanagawa(at)gmail.com)）

次号の原稿の募集：近況、論説、報告、旅行記、論評、自著紹介、書評、その他、原稿をメールまたはファックスでお寄せください。毎月10日ごろの締め切り、15日ごろの発送です。

送り先：後藤仁敏（E-mail：[goto\(at\)kd5.so-net.ne.jp](mailto:goto(at)kd5.so-net.ne.jp)、Fax：045-894-1052）